

表 1. 看護実践能力

能力	能力の構成要素	能力および構成要素の定義
専門的・倫理的・法的な実践能力	自らの判断や行動に責任を持ち、倫理的・法的規範に基づき看護を実践する能力。	
	アカウントビリティ※2 (責務に基づく実践)	看護師としての責務と職業倫理に基づき、自らの判断や行為、行ったことの結果に責任を負い、自身の役割や能力に応じた看護実践を行う。
	倫理実践	看護師として倫理的に意思決定、行動し、人々の生命や権利、多様性、プライバシー等を尊重し看護実践を行う。
	法的実践	看護師として法令遵守が定められている行動は何かを認識し、法令やガイドライン、所属組織等の規範に基づき看護実践を行う。
臨床実践能力	個別性に応じた適切な看護を実践し、状況に応じて判断し行動する能力。	
	ニーズをとらえる力	体系的な情報収集とアセスメント（整理・分析・解釈・統合）を行い、看護問題の優先順位を判断し、記録共有する。
	ケアする力	ケアの受け手とのパートナーシップ※3のもと、それぞれの状況に合わせた看護計画を立案・実施・評価し、実施した看護への対応を行う。
	意思決定を支える力	ケアの受け手や関係者との信頼関係と対話、正確かつ一貫した情報提供のもと、ケアの受け手がその人らしく生きるための意思決定を支援する。
	協働する力	ケアの受け手や保健・医療・福祉および生活に関わる職種・組織と相互理解し、知識・技術を活かし合いながら、情報共有や相談・提案等の連携を図り看護を実践する。
リーダーシップとマネジメント能力	組織の一員として看護・医療の提供を効率的・効果的に行うために、状況や役割に応じたリーダーシップを発揮しマネジメントを行う能力。	
	業務の委譲 / 移譲と管理監督	法的権限や役割等に応じて、看護チーム（看護師・准看護師・看護補助者）における業務委譲および他職種への業務移譲と、業務遂行の管理・監督を適切に行う。
	安全な環境の整備	安全な看護・医療提供環境の維持・実現のため、リスクの評価や適切なマネジメント方法の検討を行い、医療安全、感染予防、災害対応等を行う。
	組織の一員としての役割発揮	組織（チーム等）の中で、業務改善やチームワーク向上のために行動し、担う業務の優先度を考え、時間等の適切な管理のもと実施する。
専門性の開発能力	看護師としての資質・能力を向上し、適切かつ質の高い看護実践を通じて、看護の価値を人々や社会に提供し貢献する能力。	
	看護の専門性の強化と社会貢献	看護の専門職として、制度・政策の提言や看護学の発展等の看護の効率・効果を高める活動に、専門組織を通じて関わり社会に貢献する。
	看護実践の質の改善	看護の成果を可視化、分析することで、自身や組織の看護の改善プロセスに関わるとともに、同僚や学生の学習支援・指導に関わる。
	生涯学習	自身の能力の開発・維持・向上に責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽を行い、他の看護師や保健・医療・福祉に関わる多様な人々と共に学び合う。
	自身のウェルビーイングの向上	適切で質の高い看護を実践するため、看護師自身のウェルビーイング※4を向上する。

※ 2…英語表現での「Accountability（アカウントビリティ）」のニュアンスに含まれる「生じた結果とその理由への責任」という広い意味を示すために、日本語訳として多く用いられる「説明責任」ではなく「アカウントビリティ（責務に基づく実践）」と表記した。

※ 3…「看護職の倫理綱領」では、保健・医療・福祉におけるパートナーシップは、看護職と対象となる人々が、よりよい健康や生活の実現に向かって対等な立場で協力し合う関係のことを示している。

※ 4…「看護職の倫理綱領」においては、1948年に世界保健機関（WHO）が公表した「世界保健機関憲章」の記述を参考に、ウェルビーイングを身体的、精神的、社会的に良好な状態であることと意識し、使用している。

表2. 看護実践能力に基づく学習項目

能力	能力の構成要素	学習項目	知識の例	
			知識や考え方等	関連するガイドラインや資料等
専門的・倫理的・法的な実践能力	アカウンタビリティ（責務に基づく実践）	看護師の責務と職業倫理	人々の健康に携わる職種としての社会的責任、判断および実施した行為への責任、権利擁護、守秘義務	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」、「看護業務基準 2021年改訂版（日本看護協会、2021年）」、「看護倫理—看護職のための自己学習テキスト 基礎知識編（日本看護協会ホームページ）」
		実践する看護の説明と結果への責任	説明と同意（インフォームド・コンセント / アセント）、説明方法、看護記録の必要性和書き方	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」、「看護業務基準 2021年改訂版（日本看護協会、2021年）」、「看護記録に関する指針（日本看護協会、2018年）」
		自身の能力の判断に基づき行動する責任	看護師に求められる能力の水準、能力評価・アセスメントの指標	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」、「看護業務基準 2021年改訂版（日本看護協会、2021年）」、「看護師のまなびサポートブック（日本看護協会、2023年）内、『看護実践能力』および『看護実践能力習熟段階』」
	倫理的実践	基本的人権の尊重	健康（ウェルビーイング）、日本国憲法、自己決定権、性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブヘルス・ライツ）	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」
		多様性の理解と推進	多様な文化・価値観の尊重、共生社会、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）、ジェンダー平等（LGBTQ等）	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」
		医療・看護実践における倫理	生命倫理、医療倫理とその原則	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」、「看護職のための自己学習テキスト 基礎知識編（日本看護協会ホームページ）」
		倫理的課題への気づきと行動	倫理的な課題や葛藤への気づき（倫理的感受性等）、倫理的な決断と行動（協力、対話等）	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」、「看護職のための自己学習テキスト 基礎知識編（日本看護協会ホームページ）」
	法的実践	看護師の役割の関連法令	医療法、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、その他の保健・医療・福祉の関連法令	
		看護師の業務の関連法令等	保健師助産師看護師法、保健・医療・福祉の関連法令	「看護業務基準 2021年改訂版（日本看護協会、2021年）」
		個人情報の保護・管理の関連法令	個人情報の保護に関する法律、その他情報管理等の関連法令	「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス（厚生労働省、2023年一部改正）」
情報の取り扱い		デジタル機器・情報管理システム・SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の適切な利用、法律および倫理的な判断に基づく情報の取り扱い	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」、「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス（厚生労働省、2023年一部改正）」	

能力	能力の構成要素	学習項目	知識の例	
			知識や考え方等	関連するガイドラインや資料等
臨床実践能力	ニーズをとらえる力	対象者との信頼関係の構築	自己理解と他者理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション、ラポール形成	
		情報収集の方法	ニーズ把握のためのコミュニケーション技法、面接の技法	
		アセスメント（身体面）	臨床病態生理、臨床推論、フィジカルアセスメント、検査結果のアセスメント（臨床検査・画像検査等）	
		アセスメント（心理・精神面）	認知機能評価、精神状態のアセスメント、心理的発達のアセスメント	
		アセスメント（社会面）	生活のアセスメント、家族アセスメント、社会資源のアセスメント	
		アセスメント（スピリチュアル）	死生観や信条等のアセスメント、文化・宗教の理解、スピリチュアルペイン	
	ケアする力	アセスメントの統合	情報の整理、多様な情報の統合と理解、全人的アプローチ	
		看護計画	看護問題・看護診断、看護計画の立案方法、クリニカルパス	
		看護の実施と記録	看護計画に基づく看護の実施、看護師の臨床判断、看護記録の監査と評価	「看護記録に関する指針（日本看護協会、2018年）」
		実施した看護の評価	看護実施後の評価、看護計画の評価と変更、クリニカルパスのバリエーションへの対応	
意思決定を支える力	看護技術	日常生活援助技術、治療・処置に関する技術、医療関連機器の取り扱い、セルフケア向上に関する技術・教育方法		
	状態や疾病に応じた看護・医療提供	主要疾患の病態と治療、病期に応じた看護、緩和ケア、メンタルヘルス不調への支援、意思表示が難しい人々への支援、人生の最終段階にある人々への支援		
	地域での療養生活支援	疾病予防、ケアマネジメント、療養と生活を支える社会資源		
	臨床薬理	薬物動態、主要な薬物の薬理作用と副作用、与薬		
意思決定を支える力	疾病・臨床病態	主要疾患の臨床病態と治療		
	緊急時の対応	一次救命処置、二次救命処置、災害時の支援		
	看護・医療の方針等を話し合うプロセス	意思決定のプロセス、意思決定における葛藤、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）	「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン（厚生労働省、2018年改訂）」、「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン（厚生労働省、2018年）」	

能力の構成要素	学習項目	知識の例		
		知識や考え方等	関連するガイドラインや資料等	
臨床実践能力	意思決定を支えるコミュニケーション	対象者に応じた情報提供、意思決定の考え方やモデル（シェアド・ディシジョン・メイキング等）	「看護職のための自己学習テキスト 事例検討編（日本看護協会ホームページ）」	
	意思決定の関係者への支援と連携	家族等への支援、代理決定とその葛藤、成年後見人制度		
	協働する力	多職種・組織の理解と協働 多職種協働におけるコミュニケーション	保健・医療・福祉チームにおける各職種および組織の役割・機能、多職種協働実践、看看連携 コミュニケーション技法（アサーティブコミュニケーション、ネゴシエーション等）、カンファレンスの運営、コンサルテーション	
リーダーシップとマネジメント能力	業務の委譲へ移譲と管理監督	看護チームにおける業務の委譲と実施 他職種への業務の移譲と実施	各看護職（保健師・助産師・看護師・准看護師）の法的権限、看護補助者の役割、業務委譲時の自身の役割と責任（業務遂行のプロセスや完了の確認等） 他職種の法的権限（各職種の役割に関する法令）、医療関係職種におけるタスク・シフト / シェア、業務移譲時の自身の役割と責任（業務遂行のプロセスや完了の確認等）	
	安全な環境の整備	医療安全	医療事故等の予防と発生時の対応、安全文化の醸成、医療・看護の質保証	
		感染管理	感染症予防・対策、感染拡大の防止とサーベイランス、薬剤耐性	
		リスク管理と危険への暴露防止	ハラスメントや暴力へのリスク管理と対策、危険性のある医薬品等の取り扱い（麻薬や抗がん剤等の管理・保管を含む）、放射性物質・機器の管理	
	災害への備えと対応	災害への備え（防災・減災）、災害の種類や人々への影響、災害発生時の対応（事業継続計画（BCP）に基づく対応等を含む）		
	組織の一員としての役割発揮	組織の目的・目標達成への貢献	シェアドリーダーシップ（メンバーシップやフォロワーシップを含む）、心理的安全性、チームマネジメント、意見等の対立への対応（コンフリクトマネジメント等）	
		業務管理	時間管理、物的資源の管理、医療・看護提供にかかる費用（コスト）の意識、所属組織における業務の基準・手順	「看護業務基準 2021年改訂版（日本看護協会、2021年）」
業務改善		問題・課題解決の手法、業務改善のフレームワーク等の活用、PDCA サイクル（計画・Plan- 実施：Do- 評価：Check- 改善 Act）		

能力の構成要素	学習項目	知識の例		
		知識や考え方等	関連するガイドラインや資料等	
専門性の開発能力	看護の専門性の強化と社会貢献	看護師として社会に貢献する責務	健康問題の背景にある社会課題への理解、地域社会・国際社会から求められる役割を果たす重要性、グローバルヘルス、SDGs（持続可能な開発目標）	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」
		保健・医療・福祉の制度・政策	日本の医療・介護・福祉制度、看護の制度・政策、地域包括ケアシステム	
		保健・医療・福祉の最新の動向	保健・医療・福祉に関連する近年の統計（人口動態等）、実践の領域に関連する最新の技術や近年の調査・研究等、社会や地域におけるニーズの変化	「厚生労働白書（厚生労働省、各年）」
		専門職としての活動への参画	学会の参加・活用、職能団体の活動、政策提言活動、調査・研究	「日本看護学会（日本看護協会ホームページ等）」
	看護実践の質の改善	看護のエビデンス構築と発展に関わる責務	エビデンスに基づく医療・看護の実践、データリテラシー、調査・研究	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」
		エビデンスに基づく看護実践と改善	エビデンス等の参照方法、看護実践の成果の可視化と評価、看護の質評価の仕組み、学会発表、論文投稿	「労働と看護の質向上のためのデータベース（DINQL）事業（日本看護協会ホームページ等）」、「最新看護索引（日本看護協会ホームページ等）」
		他者への学習支援と指導	成人学習の特徴やプロセス、フィードバック、ファシリテーション、研修の企画・実施・評価	
	生涯学習	自身の生涯学習・能力開発を図る責務	自律的な生涯学習とキャリア形成の重要性、看護師に求められる能力の水準、自己教育力	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」、「看護師のまなびサポートブック（日本看護協会、2023年）」、「生涯学習支援ガイドブック（日本看護協会、2023年）」
		自身の能力の開発・維持・向上	生涯学習の方法、実践の振り返り（リフレクション）、越境学習、メタ認知、看護職の資格・研修制度（特定行為研修、専門看護師・認定看護師・認定看護管理者）	「看護師のまなびサポートブック（日本看護協会、2023年）」
		キャリアデザイン	自律的なキャリア形成の重要性（キャリア・オーナーシップ等）、キャリアの棚おろし、ライフステージに応じた働き方や学び直し、ポートフォリオ、ナースセンター	「看護職のキャリアデザインシート（厚生労働省、2023年）」、「ナースストリート（日本看護協会ホームページ）」
自身のウェルビーイングの向上	自身のウェルビーイングを図る責務	看護師自身のウェルビーイングの重要性、健康管理、メンタルヘルス、睡眠	「看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021年）」	
	健全な職場づくり	労働安全衛生（関連法令を含む）、コミュニケーション技法（アサーティブコミュニケーション等）、心理的安全性、ヘルシーワークプレイス	「看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン（日本看護協会、2018年）」、「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ガイドブック 第2版（日本看護協会、2016年）」	
	セルフケア	ストレスマネジメント、リラクゼーション、自己肯定、レジリエンス		

表 3. 看護実践能力習熟段階

	新人		I	II	III	IV
	必要に応じ助言を得て実践する		標準的な実践を自立して行う	個別の状況に応じた判断と実践を行う	幅広い視野で予測的に判断し実践を行い、ロールモデルとなる	より複雑な状況において創造的な実践を行い、組織や分野を超えて参画する
専門的・倫理的・法的な実践能力		倫理的・法的規範に基づき実践する		個別の状況において、倫理的・法的判断に基づき実践を行い、規範からの逸脱に気づき表明する	倫理的・法的判断に基づき認識した課題や潜在的リスクの解決に向け行動しロールモデルを示す	より複雑な状況において倫理的・法的判断に基づき行動し、倫理的かつ法律を遵守した実践のための体制整備に組織や分野を超えて参画する
	アカウントビリティ (責務に基づく実践)	自身の役割や能力の範囲を認識し、自立して行動・説明し実践への責任を持つ		状況に応じ自ら判断して行動・説明し実践への責任を持つとともに、責任を果たす行動における自身の課題に気づき他者に共有する	責任を果たすことについて同僚や組織における課題やリスクに気づき、解決に向けて行動する	より複雑で関係者が多様な場面においても責任を果たし、組織や分野を超えて参画する
	倫理実践	倫理指針等と目の前の実践を紐づけて理解し、倫理的指針に基づき行動する		個別的な状況においても自身で判断し倫理的に行動するとともに、倫理的問題が生じている可能性に気づき他者に共有する	顕在的・潜在的な倫理的問題について問題提起し、同僚に働きかけモデルを示す	より複雑かつ多様な顕在的・潜在的な倫理的問題について、解消のために組織や分野を超えて参画する
	法的実践	法令に基づき取るべき行動・取ってはいけない行動を知り、法令を遵守し行動する		個別的な状況においても法令を遵守し行動するとともに、法令に違反する可能性がある行動に気づき他者に共有する	法令に違反するリスクがある同僚の行動や組織の状況に対し問題提起する	より複雑な状況においても法令を遵守し、法令に違反するリスクがある行動や状況に対し組織を超えて参画する
臨床実践能力		基本的な看護手順に従い、必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択し QOL を高めるための看護を実践する
	ニーズをとらえる力	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえてニーズをとらえる
	ケアする力	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	意思決定を支える力	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴う揺らぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	協働する力	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携できる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす

	新人		I	II	III	IV
	必要に応じ助言を得て実践する		標準的な実践を自立して行う	個別の状況に応じた判断と実践を行う	幅広い視野で予測的に判断し実践を行い、ロールモデルとなる	より複雑な状況において創造的な実践を行い、組織や分野を超えて参画する
リーダーシップとマネジメント能力		基本的な業務手順に従い、必要に応じ助言を得て実践する	業務手順や組織における標準的な計画に基づき自立して実践する	個別的かつ一時的な状況における判断と実践を行う	組織における安全かつ効率的・安定的な実践のための体制整備に主体的に参画し、同僚を支援する	安全で効率的・安定的な実践を常に提供できるよう、組織や職種を超えた調整や教育に主体的に参画する
	業務の委譲 / 移譲と管理監督	看護チーム内の他職種の法的権限や役割を知り、助言を得て、業務を委譲し、委譲した業務の実施確認をする	看護チーム内の他職種の法的な権限や役割を理解し、自立して業務を委譲し、委譲した業務の実施確認をする	イレギュラーな状況においても看護チーム内で適切な業務の委譲および実施確認をするとともに、他職種の法的権限や役割を理解し、必要時業務を移譲する	組織において、看護チーム内および他職種への業務の委譲・移譲や業務遂行のプロセスが安全かつ効率的に行われるよう、マニュアル等の見直しに参画する	業務の委譲・移譲や業務遂行のプロセスが安全かつ効率的に行われるよう、組織や職種を超えた調整による体制整備に主体的に参画する
	安全な環境の整備	助言を得て、安全な環境整備に関わるルールに基づき行動する	安全な環境整備に関わるルールに基づき自立して行動する	事故や問題の発生時、人々や同僚の安全を確保し影響を最小限にする行動をとる	事故や問題の発生時にも主体的に行動し同僚を支援するとともに、潜在的なリスクに対する平常時からの危機管理体制整備に参画する	事故や問題の発生時・平常時の危機管理体制の整備や見直しに、組織や職種を超えて主体的に参画する
	組織の一員としての役割発揮	自身の業務を時間内・時間通りに行うとともに、組織(チーム等)の一員としての役割を理解する	組織や業務実施の標準的な計画に基づき、業務の優先順位の判断や効率的な時間管理を自立して行うとともに、組織(チーム等)の活動に参加し同僚と協力する	業務の実施の中で一時的にリーダーとしての役割を担い組織(チーム等)の目標達成のための業務の管理や改善を行う	組織の目標達成のための業務改善や同僚の支援を行う組織のリーダーとしての役割を担い、改善すべき点は同僚にフィードバックする	業務改善や人材育成のためにリーダーとしての役割を担い目標達成に参画するとともに、組織を超えた変革や人材育成に役割を発揮する
専門性の開発能力		専門職としての自身の質の向上を図る		自身の質の向上を継続するとともに、組織の看護の質向上や組織の新人・学生の指導に関わる	幅広い視野と予測に基づき自身と組織の質を更に向上するとともに看護の専門職組織の活動に関わる	未来を志向し、看護の専門職として、組織や看護・医療を超えて社会の変革・創造や人材の能力開発に貢献する
	看護の専門性の強化と社会貢献	看護の専門職としての自覚と社会から求められている役割の認識に基づき行動する		保健・医療・福祉に関わる専門職としての自覚をもって行動し、組織の新人・学生のロールモデルとなる	保健・医療・福祉の制度や政策に広く視野をもって専門職組織(職能団体や学会等)の活動を通じた提言活動や看護学の発展に関わる	専門職組織(職能団体や学会等)に参画し、未来を見据えた制度・政策の改善・決定や、組織や看護・医療を超えた能力開発に関わる
	看護実践の質の改善	科学的根拠に基づき行動し、自身の看護実践を定期的に見直し質向上を図る		エビデンスに基づき自身や組織の看護実践の質の評価と改善を行うとともに、組織の新人・学生の指導を行う	新たな知見や技術を取り入れ実践し、成果を可視化することでエビデンス構築に貢献するとともに、同僚の学習や能力開発を支援する	看護・医療を超え新たな知見や技術を活用し組織を超え未来を見据えた変革・創造を主導・発信するとともに、看護実践の質向上を支援する
	生涯学習	自身の実践や能力の内省・評価や課題の整理を行い、適宜同僚等からのフィードバックも得ながら、学習を自ら計画的に行う		自身に必要な知識や経験等を判断し多職種と共に学び合うとともに、自身の今後のキャリアを描く	自身のキャリアの中長期的展望を描き、その展望に応じた多様な学びを継続し同僚のモデルとなる	自身のキャリアに応じた学び直しや学習意欲を必要に応じて行うとともに、組織や看護・医療を超えて人材の生涯学習を支援する
	自身のウェルビーイングの向上	自身のウェルビーイングの維持を図る		心身の状況を判断してセルフケアを行い、自身のウェルビーイングを維持向上する	自身や周囲の状況の変化を予測しながら自身のウェルビーイングの維持向上を継続し、同僚のモデルとなる	自身のウェルビーイングの維持向上を継続するとともに、組織や看護・医療を超えて人材のウェルビーイングに創造的に関わる